



「アメリカ見聞録」

林 保明

Yasuaki Hayashi
America through my eyes

1. イントロダクション

今年は大統領選挙と言うことで、何かとアメリカ合衆国が話題に上る。テレビを見ていたら「日本がアメリカの51番目の州になれば…」と言う発言をする代議士まで出てきた。「アメリカがくしゃみをする、日本が風邪をひく!」と言われたのはいったい何時だったのだろうか?

去年は戦後70年と言う事で、何かと戦争が話題に上った。ニュースを見ながら「アメリカには戦後などと言う言葉はあるのだろうか?」と、ふと疑問に思った。

僕は戦後5年たって生まれた。生まれ故郷横浜の街にはまだ戦後の面影が残っていて、黒人兵の姿も良く目にした。

40歳を過ぎて初めて海外旅行に行き、50歳を遥かに過ぎてアメリカに行った。その後、面白くなって3回渡米したのだけれど、子供の頃に頭の中で形作られたアメリカの姿と、実際に目にしたアメリカとはどうも違う気がする。

でも考えて見れば、僕の頭の中のアメリカはテレビや本で得た知識でしかないし、しかも何十年も前のアメリカを思い描いて居るのかも知れない。でも、おそらくは政治家も含め、世の中の大人が思い描くアメリカは多かれ少なかれ、そんな物では無いかと思う。

僕がシカゴやニューヨークの町で接するアメリカ人は地元の人でなく、夏休みを過ごしに来ている人達がほとんどなのだ。アメリカ大陸以外から来た外人だって沢山居る。(僕もアメリカではその外人の一人だ!?)

「それならば、どうしたら本当のアメリカに出合えるのだろうか?」

そんな事を考えながら、ディパックを背に去年の夏はアメリカの歴史をたどりながら、シカゴの街を起点に中西部の町を旅して見た。なぜか15歳の少年に戻ったような気がした。





CUT THRU GLASS
FOR EMERGENCY
RESCUE

**ENOLA
GAY**

A.A.F. PROJECT NO. DOM. 98289S
U.S. ARMY B-29 BLOCK 45 NO.
AIR FORCES SERIAL NO. 44-86292

0 MAX GROSS WEIGHT 1200 LBS.
12 MAX GROSS WEIGHT 2400 LBS.

SERVICE THIS AIRPLANE WITH GRADE 100 FUEL
IF NOT AVAILABLE T.O. NO. 00-3-1 KILL BE
CONSULTED FOR EMERGENCY ACTION

SUITABLE FOR AERONAUTICS

NO SMOKING WITHIN
100 FT.



DAYTON
FREIGHT

H-D FIELDS
HEATING & COOLING
A HIGHER DEFINITION OF QUALITY
847-455-HEAT

H-D FIELDS
HEATING
COOLING
847-455-HEAT
SERVING

2. 人とインフラ







写真リスト

1. イントロダクション

1. シカゴ・ミレニアムパーク シカゴ (2015.9)
2. シカゴL (ループ) の駅 シカゴ (2015.8)
3. ボーイングB-29 「エノラゲイ」ダレス空港 (2015.9)
4. シカゴLの窓から シカゴ (2015.8)

2. 人とインフラ

5. シカゴ川クルーズ船 シカゴ (2015.8)
6. ルート66のバーガーショップ スプリング・フィールド (2015.8)
7. シカゴ河畔風景 シカゴ (2015.9)
8. シカゴ河畔の昼休み シカゴ (2015.8)
9. オハイオ川の外輪船 シンシナティ (2015.9)

3. 社会の歴史を辿る

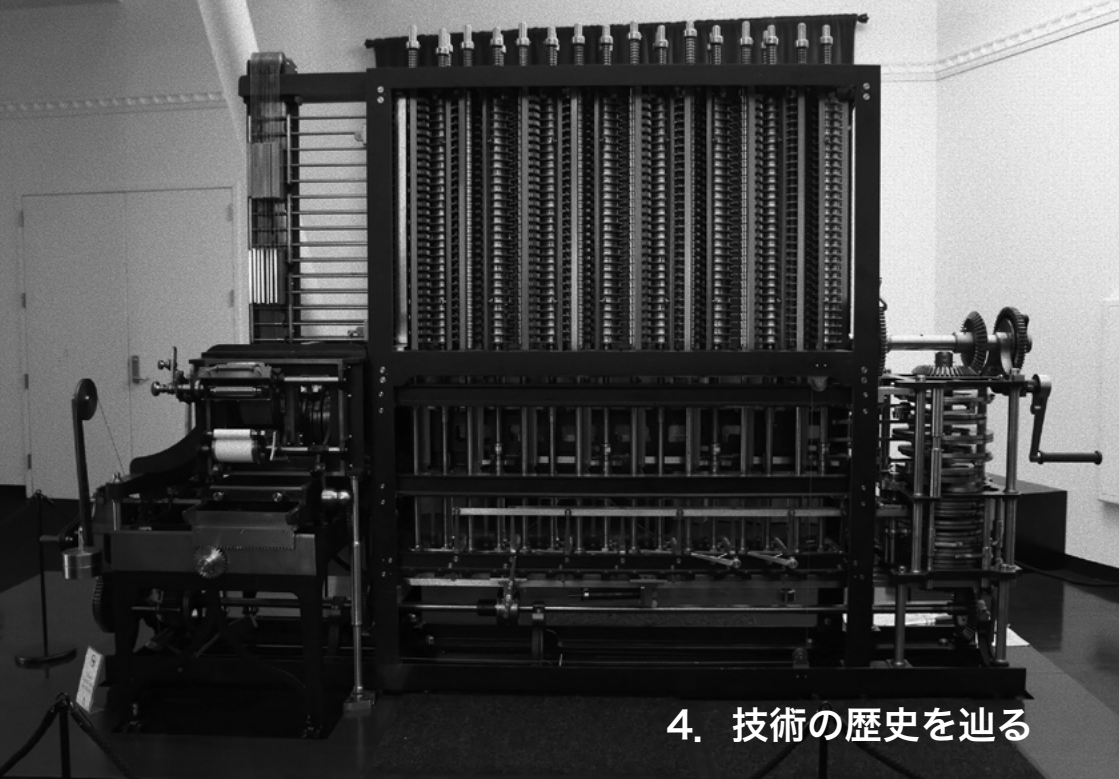




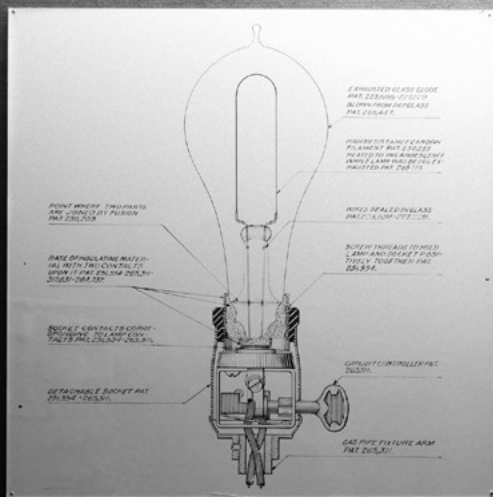
写真リスト

3. 社会の歴史を辿る

10. リンカン記念館 スプリング・フィールド (2015.8)
11. 秘密結社KKK 国立地下鉄自由博物館 シンシナティ (2015.9)
12. ベトナム戦争メモリアル ワシントンDC (2012.8)
13. 朝鮮戦争ミュージアム スプリング・フィールド (2015.8)



4. 技術の歴史を辿る







Child Notebooks

new technological, less culture, and spawned ideas that gave birth to the Silicon Valley. From its founding in 1951, Semiconductor in 1987, company's research and development notebooks that recorded accounts of their work.

At Semiconductor, Texas, these notebooks to the museum is retaining the same funds for their intent of ovarian tissue to enable courtneys of Silicon Valley.

book is filled with and samples of walters, and we insight into the work and book tells a story, collectively, that changed the world.

se seminal events in the on. Jean Hoerni, Gordon founders of Fairchild, a new planar process for this volume is open at a page daily journal that threatened Moore's process solved the lar technique to conceive the circuit. It continues to be

in work on the notebooks was generous donation of Newhaven



写真リスト

4. 技術の歴史を辿る

14. 機械式計算機 (Difference Engine No.2、1834年に考えられて1991年に作られた。コンピュータ歴史博物館 マウンテンビュー・カリフォルニア (2013.8))
15. エジソンの電球 (1879) 国立アメリカ歴史博物館 ワシントンDC (2015.9)
16. T型フォード (1908) 同上 (フォードは若い頃エジソンの会社で働いていた!)
17. SLビッグボーイ (1941) とレイモンド・ローウィーデザインのEL GG1 (1935) 国立鉄道博物館 ウィスコンシン州グリーンベイ (2013.8)
18. ボーイング307 ストラトライナー (1938) ウドバーハジーセンターダレス空港 (2015.9) 世界初の与圧キャビンを持つ商業用旅客機
19. フェアチャイルド社「8人の反逆者」(1956) コンピュータ歴史博物館 マウンテンビュー (2013.8) のちに1960年代のシリコンバレー革命の主演となった若者たち!
20. グーグル、ストリートビュートライク (2007) コンピュータ歴史博物館 マウンテンビュー (2013.8)

5. 戦争の技術





写真リスト

5. 戦争の技術

21. 特攻兵器「桜花」練習機 (1944)
海軍博物館ワシントンDC
(2015.9)
22. 「桜花」22型 (1945) ウドバー
ハジーセンター ダレス空港
(2015.9)
23. ボーイングB-29 「エノラゲ
イ」 (1945) 同上
24. 原子爆弾「リトルボーイ」の
レプリカ (1945) 同上

「桜花」に関する資料を読んでみた。(中公文庫：極限の特攻機「桜花」内藤初穂著)

爆撃機に吊って発射される構造からその航続距離は最大で6千メートルあまり、上の写真は練習用の訓練機(グライダー)なのだが、テストも完了しないままフィリピンに輸送しようとした実機50機は日本近海で潜水艦に遭遇し、海の藻屑となった。またアメリカ軍が沖縄近海にまで来た段階で出撃したその第一陣(昭和20年3月21日：桜花18機)は、護衛の戦闘機半数が燃料タンクの不調で引き返し、敵艦隊近くまで行っても上空警護のグラマン50機に襲われ、母機の陸上攻撃機は桜花を切り離しても敵を振り切れず全滅…、それ以後も戦果のほとんど無いまま55名の特攻要員を含め400人余りが亡くなり靖国神社に祀られている。靖国神社には桜花の実機も展示されているようだ。

広島原爆や靖国神社はマスコミに良く登場するのだけれど、「桜花」はNHKテレビで一度見た以外ほとんど日本では報道された記憶がない。

戦後イギリスのBBCでドキュメンタリーが撮られ、その関係かイギリス人が解説を書いているのだけれど、解説を読んで「なるほど…」と思った。

『桜花部隊の戦死者たちが霊を鎮められ、神として祀られている靖国神社は、じつに矛盾に満ちたところだ。花見を目的に集まってくるアベック、高校生、大学生、社会人、拡声器を武器に「北方領土を返せ!」、などと叫ぶ軍服を着た右翼団体。公式か非公式か不明だが、とにかく参拝にこだわる政府の閣僚。そして、息子、夫、兄弟をうしなってお参りする遺族の人たち。要するに、現代の靖国神社は、歴史を知らない人々、歴史を都合のいいように作りかえる人々、歴史を生きた人々が入り交じる場所であり、神聖な場所である。』ジョン・プリーン(ロンドン大学助教授)

戦後70年、それは史実をあいまいにしてきた歴史のような気がする。

「桜花」と「B-29」を見比べると、戦争の技術とは機械的なものだけでなく、人間をコントロールする技術なのだという事がわかる。

その技術はドイツ、日本、北朝鮮、IS……と今も脈々と続いて居るのだろう。



6. 橋の物語

写真リスト

6. 橋の物語

25. クイーンズ・ボロ橋
(1909) こちらは片持ち梁橋 ニューヨーク (2015.9)
サイモンとガーファンクル「59番街の歌 (フィーリン・グルービー)」で有名?
26. 同上 ルーズベルト島まで、脇をケーブルカーが通っている。
27. 同上







ROOSEVELT ISLAND

子供の頃、図鑑で見て一度は自分の目で見たいと思っていたゴールデン・ゲートブリッジを実際に見たのは2013年の8月、半ば偶然だったのですが、それからしばらくして、偶然にその橋の歴史を書いた本を見つけました。

「ゴールデンゲート物語」と言う、これも技術者が書いた本なのですが、なかなか面白く、普段あまり本を読まない僕が、一週間で読んでしまいました。初めてこの橋を目にした時言いようの無い感動を覚えました。その感動の意味がやっと理解出来た気がします。その巨大さと美しさはもちろん、構造物と言うよりは一つの芸術作品として訴えて来る力があったのです。

計画から建設まで20年かかって人々を説得して、困難を乗り越えた末の夢の実現はそれ自体、物凄いエネルギーを持って居るのでしょうか。

この橋を造ったのが、自治体でも国家プロジェクトでも無く、ブリッジ・ディストリクト（特別行政区域）と言う地域住民で構成された任意の組織であり、資金集めから自分たちで始めた民間プロジェクトだと言うことも、この本を読んで初めて知りました。

しかも、それはジョセフ・シュトラウスと言う一人の技術者の夢と情熱が、数々の反対意見や嘲笑を乗り越えて、牽引して行ったプロジェクトだったのです。

経済優先の今の世の中、国内を旅していると景観を無視したコンクリートの塊が、これでもかと狭い日本を蝕む感さえあります。

この橋が出来たのは第一次世界大戦後の1937年『昔はこう言う人が居たんですね。儲けも考えず、世界最長の橋をとにかく作りたいと思い、人々を動かした。』、科学技術の歴史とは、結局、情熱を持った人間の歴史だったのだと思います。

自分も含め、人間に情熱が無くなって来たのが現代なののでしょうか？

そんなことを考えてから早3年、ジョセフ・シュトラウスが育ったシンシナティにシュトラウスの原点となった、ジョン・A・ローブリングが造った吊り橋を見に行ってきました。



28. ゴールデン・ゲートブリッジ (1933) サンフランシスコ (2012.8)

29. 同上



30. ジョン・A・ローブリング橋 (1866) すぐ脇に銅像がある シンシナ
ティ (2015.9)

31. 同上

アメリカ見聞録 おわり